

各位

平成 30 年 7 月 吉日
(公社) 熊本県理学療法士協会
会長 坂崎 浩一
学術部部长 宇野 晃輔
専門領域部部长 浪本 正晴

平成 30 年度「第 75 回学術研修会」のご案内

拝啓

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、下記要綱にて平成 30 年度第 75 回学術研修会を開催する運びとなりました。

今回は広南病院リハビリテーション科総括主任の阿部浩明先生をお招きし、「高次脳機能障害に対する理学療法—Pusher 現象を中心に—」というテーマでご講演いただきます。多岐にわたる高次脳機能障害の理解を深め、特に Pusher 現象のメカニズムや治療を中心に学ぶ貴重な機会になると思います。ご多忙の折とは存じますが、皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

敬具

記

テーマ：高次脳機能障害に対する理学療法—Pusher 現象を中心に—

講師：阿部 浩明 先生（広南病院リハビリテーション科 総括主任 理学療法士）

日時：平成 30 年 10 月 21 日（日） 9：00～16：00（受付 8：30～）

会場：熊本リハビリテーション病院 地域交流ホール

対象：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、その他医療関連職種

定員：110 名（定員になり次第締め切らせていただきます）

会費：熊本県理学療法士協会 会員 4000 円／非会員 8000 円

※参加費は当日支払いになります。おつりのないようにご準備下さいますようお願い致します。

申し込み期間：平成 30 年 7 月 23 日(月)～10 月 5 日(金)まで

期間を延長しました！

申込み	熊本県理学療法士協会 HP “行事カレンダー” より
ポイント	神経理学療法専門分野、新プロ (C-1 神経系疾患の理学療法)
受付	JPTA 会員証を持参してください (会員のみ)
お願い	申し込み時は <u>個人連絡先 (メール・携帯電話)</u> を必ず入力してください

* ご不明な点は下記までメールでご連絡ください。

問い合わせ先：tyuusuisinkeihan@yahoo.co.jp 担当：平野 功成

第 75 回学術研修会

テーマ『高次脳機能障害に対する理学療法-Pusher 現象を中心に -』

【講師紹介】

講師：阿部 浩明先生

所属：一般財団法人 広南会広南病院 リハビリテーション科 総括主任



【学歴・職歴】

東北大学大学院医学系研究科卒 博士（医学）

平成9年 KKR宮城野病院勤務

平成15年 東北文化学園大学に勤務

平成17年 一般財団法人広南会広南病院に勤務

その他、東北大学大学院肢体不自由学分野や新潟医療福祉大学などで多数の非常勤講師として勤務

平成22年 神経系専門理学療法士取得

平成25年 認定理学療法士（脳卒中）取得

平成23年 日本理学療法士協会日本神経理学療法学会運営幹事

「脳科学とリハビリテーション」編集協力委員

平成25年 「理学療法学」・「Physical Therapy Research」編集委員

興味領域：「Pusher現象」「脳卒中片麻痺者の歩行再建」「下肢装具療法」「脳画像」

主な論文：「Abe H. et al.: Predictors of recovery from traumatic brain injury-induced prolonged consciousness disorder. *Nueral Plast.* DOI:9358092, 2017. 」

「Abe H. et al.: Prevalence and length of recovery of pusher syndrome based on cerebral hemispheric lesion side in patients with acute stroke. *Stroke* 43(6), 1654-1656, 2012. 」

「Abe H. et al: Improving Gait stability in stroke Hemiplegic Patients with a Plastic Ankle-Foot Orthosis. *Tohoku J Exp Med.* 218 (3), 193-199, 2009. 」

【代表著書】

「高次脳機能障害に対する理学療法」

「脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション」

「標準理学療法学神経理学療法学」

「脳卒中理学療法の理論と技術」

「極める！脳卒中リハビリテーション必須スキル」

【受賞歴】

日本理学療法学術大会大会長賞受賞（平成20年）

日本意識障害学会会長賞受賞（平成21年）

東北脳血管障害研究会医学奨励賞（中村隆賞）受賞（平成24年）、

日本理学療法学術大会最優秀賞受賞（平成25年）